

0 さん (M 中学校)

3 学年総合「TRY・トライ・とらい」 ～被爆国日本から伝えられること～

- 1 M 中学校の総合学習
- 2 3 学年「TRY・トライ・とらい」とは
- 3 3 年 4 組の A 生の「TRY・トライ・とらい」の取り組み
- 4 「ねがい」プロジェクトとは
- 5 平和学習に使用した映像資料
- 6 「反核・反戦・平和のつどい」発表原稿
- 7 「反核・反戦・平和のつどい」参加者の感想
- 8 3 年 4 組の生徒がつくった「ねがい」5 番
- 9 資料

3 学年総合「TRY・トライ・とらい」

～被爆国日本から伝えられること～

1、M 中学校の総合学習

M 中学校では3年間を見通したカリキュラムを設定し、段階に応じた学習を進めている。特に3年生では、学びの集大成として、地域理解教育・環境教育・福祉ボランティア交流・国際理解教育等の中で個々にテーマを持って追究し、将来は自分の中学校時代の集大成としての卒業論文が作りあがっていき、自分の中学校時代の宝物、自分の自慢の糧となるもの作製していきたいという思いを大切に進めている。

1 学年「クローズアップ箕輪」：箕輪町についてのグループ学習

2 学年「学級チャレンジ」「職業体験」：学級ごとテーマを設定しての学習

3 学年「TRY・トライ・とらい」：個々にテーマを設定しての個別追究

2、3 学年「TRY・トライ・とらい」とは

M 中学校3 学年は個別追究を中心に総合の時間を進めている。1・2 年生の頃の経験や5 月に追究分野を考え、資料収集を行った。その後、集めた資料などから追究テーマを絞り込みさらに調査を行った。自分なりの考察を加え、模造紙にまとめ発表した。

3、3 年4 組の A 生の「TRY・トライ・とらい」の取り組み

5 月～6 月

A 生は、社会科の歴史の授業、総合学習での平和学習などから広島に落とされた原爆に関心を持ち、被爆国日本について調査を始めた。調査を進めていく中で、広島の中学生在がつくった「ねがい」という歌と出会った。そして、その歌に込められた思い、この歌を通しての活動などを調べていくうちに、その思いに共感していった。そして、自分にもできることはないかと自問し始めた。この歌で平和を願う気持ちを表したいという願いが生まれた。



7 月

「ねがい」という歌を通して平和を願う気持ちを表したいという思いから、「5 番をつなげよう」プロジェクトに参加した。その後、この歌のことをクラス全体に紹介して、クラス全員で取り組むことになった。クラス全員が作詞し（授業参観日）、自分の作った歌を何回も校正をして、最終的に平和を願う思いが込められた歌が完成した。

8 月

夏休み直前クラス全員で「ねがいの5 番をつなげよう」プロジェクトに応募した。そして、8 月2 日に9 6 0 番から1 0 0 0 番まで認定された。中でも3 年4 組の生徒 B 生が、記念すべき1 0 0 0 番に認定され、クラス全員がうれしい気持ちになった。さらにそのことが新聞で取り上げられて、「自分たちの力は小さいけれど、何もしなければ何も変わらない。できることから取り組んでいきたい」という気持ちを再確認できた。



8月6日 広島平和祈念式典

広島平和祈念式典と同じ日。上伊那教職員組合主催「反核・反戦・平和のつどい」に参加し、自分たちに学習の内容を発表した。A生とその思いと一緒に伝えたいを18名の生徒が参加した。一人の個人追究のテーマからクラス全体に広がり、学習発表ができた。会場では戦争体験者のお話をお聞きした。苦しい戦時中の様子、悲惨な光景、当時の新聞に書かれていた戦争の記事などのお話を通して、学習してきたことをさらに深めることができた。

9月

ふきはら祭（文化祭）

ステージ発表「総合的な学習の時間」でパワーポイントを使って発表を行った。全校・地域に平和への思いを発信した。1・2年生の感想から「来年は広島について学習したい」「ねがいという歌について調べたい」などの感想が出された。

4、「ねがい」プロジェクトとは

2003年7月に兵庫県で開催された第10回アイアーン国際会議のテーマソングとして、「ねがい」アイアーンプロジェクトは誕生した。2002年3月広島の中学生在が平和学習の一環として、世界の平和を願う歌『ねがい』を発表した。この歌を通じて平和への思いを広めることがこのプロジェクトの目的となっている。その一環として、第10回会議にむけて、2003年3月より、オリジナル歌詞の多言語に翻訳するプログラム「世界の言語で平和を歌おう！」が始まった。ICT（情報通信技術）を活用することにより、多くの言語に翻訳され、また海外から多くのビデオファイルも届けられ、アイアーンの先生方や子どもたち、日本で参加した皆様方に広く知っていただくことができた。さらにつながった輪をこれからもさらに広げていきたいと、新たな夢を育み、プログラム「ねがいネットワークで歌詞を広めよう！（5番を作ろう）」を会議後立ち上げた。多言語への歌詞の翻訳、新しい歌詞の募集などを通して、『世界の平和』を希求し、新しい交流の輪が次々と生まれている。



「ねがい」の歌詞

作詞：大州中学校3年生有志 編詞：山の木竹志
作曲：高田りゅうじ

- 一 もしもこの頭上に 落とされたものが
ミサイルではなく 本やノートであったなら
無知や偏見から 解放放たれて
きみは戦うことを やめるだろう
- 二 もしもこの地上に 響きあうものが 爆音ではなく
歌の調べであったなら
恐怖や憎しみに 囚われないで
人は自由の歌を うたうだろう
- 三 もしもこの足下に 植えられたものが
地雷ではなく 小麦の種であったなら
飢えや争いに 苦しまないで
共に分かち合って 暮らすだろう
- 四 もしもひとつだけ ねがい 叶うならば
戦争捨てて 世界に愛と平和を
このねがい叶うまで 人類（わたしたち）は
歩みつづけることを やめないだろう

5、平和学習に使用した映像資料

- 「太平洋戦争」前編・後編（NHK スペシャル）
- 「スチール写真が語る戦後60年の歩み」（NHK）
- 「ヒロシマ・グラウンド・ゼロ」（ナック映像センター）
- 「太平洋戦争」前10巻（ユーキャン）

ねがい

大州中学校3年生有志/作詞
山ノ木竹志/編詞
たかだりゅうじ/作曲

♩=76 ca (♩ beat)

1. もしもこの頭上に 落とされたものが
2. もしもこの地上に 響きあうものが
3. もしもこの足下に 植えられたものが
4. もしもひとつだけ ねがい 叶うならば

おとされたものが
ひびきあうものが
かえらぬものが
ねがいかなうまで

ほんやノートであつたら
うたのしらべであつたら
こびせのうたであつたら
せかいに（ねがい）と あ いわせ

無知や偏見から 解放放たれて
恐怖や憎しみに 苦しめないで
共に分かち合って 暮らすだろう

人類（わたしたち）は
歩みつづけることを やめないだろう

あゆみつづけることを やめないだろう

○ 「日本はなぜ戦争に負けたのか（特別番組）」（出展不明）

6、「反核・反戦・平和のつどい」発表原稿

パワーポイントのスライドを使って学習のまとめを発表した。

スライド	分担	原稿
1	c	被爆国日本から世界に伝えられること M中学校3年4組
2	c	私たちは総合的な学習の時間「TRY・トライ・とらい」の時間で平和学習に取り組みました。個人個人テーマを決めました。私たちは原子爆弾投下後の広島の写真を見て、恐怖を憶え、また、興味・関心を持ちました。 原子爆弾の威力を資料で見て、絶対に無くさないといけない。 世界唯一の被爆国日本から私たちが伝えられることは何かないか。以上のことをテーマに考え調べていきました。
3	c	はじめに原子爆弾にから学習をはじめました。原子爆弾は通常爆弾の3000機分の威力があり、近くでそれを目にした人とは「もう1つの太陽が出現した」とおもうほどでした。その爆風は、台風の1000倍の威力があり大量の放射線が含まれていました。その後「黒い雨」が降り続けました。
4	D	1945年8月6日午前8時15分 運命の日
5	D	広島に落とされた原爆は「リトルボーイ」といい、B-29エノラ・ゲイから投下された。
6	D	これは実際に撮影されたきのご雲です。爆発でできたきのご雲は広島市全土を覆い高度数千メートルにも達しました。
7	E	爆心地から500メートル以内にいた人の90%が即死・即日死してしまいました。さらに、投下3ヶ月間で、爆心地から500m以内は、98～99%の人が亡くなった。 8月に原子爆弾が落とされてから12月までに、12万人の人が亡くなったと推定されています。
8	F	現在の原爆ドーム 以前は産業奨励館として地域の物産や工芸品が展示され、地域の人が集まる建物でした。それが一瞬にして破壊されてしまいました。
9	F	広島市が壊滅的な被害を受けました。
10	F	これは日本人が撮影したきのご雲です。
11	F	原爆投下の瞬間の映像をご覧ください。
12	G	私たちは、写真でしか当時の様子を知ることができません。残された写真から私たちはたくさんのお話を学びたくさんのお話を感しました。何枚か写真をご覧ください。（写真が4枚）
13～16	G	たくさんの方が、熱波と激しい爆風を浴び被爆しました。普段と変わらない朝、突然に原爆が炸裂し、多くの方が何もできず、何が起きているかもわからないままに亡くなってしまいました。
17	H	被爆者の症状として熱傷・外傷・放射能症があります。どれも体が焼け爛れ、直接見ることができず目を背けたくくなるような光景が広がっていたそうです。
18	H	それらの被害に加え二次被爆も起こりました。二次被爆とは直接被爆していないのに放射線の影響を受けることで、おもに被爆地に救助にきた人達が放射線の被害を受けました。
19	I	原爆投下から60年が経過した今、核兵器の威力はますます上がり、それがもたらす悲劇は60年前の比ではない。60年前の原子爆弾ですら多大な被害となったので、現在の威力は推定できない。それを決して使うべきではない。
20	J	これからの未来を作っていく僕たちは 戦争に関係のない多くの命を一瞬で散らせた 原子爆弾を許せません 「もう二度と核兵器をどの国に対しても使わせない」 そして、今現在も核兵器を所持し続ける国に対し 「なぜたくさんの人を殺すだけの、罪のない人の自由を奪うだけのモノ」 を持ち続けるのか問いただきたい。
21	K	そして、今の私たちにできることはなにか考えました。
22	K	原爆が投下されてから60年以上が経過し、「100年は草木も生えない」と言われていた広島が見事に復活しました。平和な今を生きる私たちは何をすべきだろう。
23	L	毎年 今日8月6日に広島で平和記念式典が開催されています。

24	M	上伊那でも同じように平和を願いたいと思います。
25	N	わたしたちは平和学習を進めていく中で「ねがい」と言う曲に出会いました。ねがいと言う曲は広島の中学生在が平和を願う気持ちを歌にしたものです。この歌は1番から4番までがあり、それに続く5番をみんなでつなげていこうというプロジェクトが取り組まれています。
26	0	はじめに3年4組の友達がねがいの歌の5番を作詞して応募しました。それが936番に掲載されました。
27	P	戦争をなくすためにはどうしたらよいか。誰もが安心して暮らせる世界にしたい。など、これからを生きる僕たちの思いを歌詞に込めて歌を作りました。
28	全員	3年4組で選んだ「ねがい」の5番です。 もしも この世界に 争いがなかった みんなの手のひらには希望があふれていただろう 傷付け 悲しみあうこともなく みんなは喜び 暮らすだろう (全員で歌う)
29	Q	その後、クラス全員でこのプロジェクトに取り組みました。そして全員が応募し960番から1000番まで認定されました。そして記念すべき1000番に3年4組が選ばれました。
30	I	これからの未来を作っていく僕たちは 戦争に関係のない多くの命を一瞬で散らせた 原子爆弾を許せません 「もう二度と核兵器をどの国に対しても使わせない」 そして、今現在も核兵器を所持し続ける国に対し 「なぜたくさんの人を殺すだけの、罪のない人の自由を奪うだけのモノ」 を持ち続けるのか問いただしたい。
31	I	私たちに何ができるのか これからを生きる私たちが、過去(戦争の惨劇・苦しみ)をしっかり学び、反省しなければならない。 そして、二度と同じ事を決して繰り返してはいけない。今の自分たちができることは、それほど大きなことではないかもしれない。しかし、何もしなければ何も変わらない。戦争を知る人が少なくなってきた現在の現在。過去を風化させないように、さらに学習を進めて、これから先に伝えていかなければならない。 『戦争のない、争いのない、平和な世界を築いていきたい』

7、「反核・反戦・平和のつどい」参加者の感想

- ・ M 中学校の発表がすばらしく涙しました。(一般)
- ・ 3年4組のメッセージに込められた平和への思いが強く伝わってきました。(保護者)
- ・ 平和学習の一部を見ることができ勉強させられました。共に学ぶことの大切さを感じました。(教職員)
- ・ 3年4組さんの作った歌詞がすばらしかった。いろいろ考えさせられました。(一般)
- ・ 子どもたちのように直接何かに関わることが大切であると感じました。話を聞いたり、調べたりすることによって高い意識が持てるのだと思いました。(教職員)
- ・ 社会形成者の一員として後世に伝えるために、自分なりの形でしていきたいです。子どもたちにヒントをもらいました。(一般)

8、3年4組の生徒がつくった「ねがい」5番

A生の取り組みからクラスの中の一人が「ねがい」プロジェクトに個人的に参加した。その歌が936番に認定され、クラスの話題となった。その後、クラス全体に広がり、全員でこのプロジェクトに応募しよう！という活動がはじまった。つくった詩を何度も推考して、自分の平和への思いを込めた詩を完成させた。

もしも 世界中の人々が 戦争のおろかさに気付いたならば
人々の心から 悲しみは消えて 平和の歌が 響くだろう
(長野県 M 中学校 3年4組 0)

もしも この世界に争いがなかったら みんなの手のひらには希望があふれていた
だろう 傷付け 悲しみあうこともなく みんなは喜び 暮らすだろう

(長野県 M 中学校 3 年 4 組 K)

もしも この世に神という人がいるのならば 世界を平和にして下さい
私達の夢という名の架け橋を この空に かけて下さい
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 I)

もしも この世界に 原爆がなかったらおろかな 戦争は おこらなかつたらう。
人々が 平和を 願ってれば、 罪のない人々は 生きていただろう。
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 F)

もしも この世に 核兵器がなかったら いまだに何人の人々が生きていただろう
自由や平和を失わず いまごろは 楽しく生きられていただろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 I)

もしも誰もが 平和を願っていたら 戦争での勝利ではなく 平和なら
透き通った目をした 子供たちの 汚れない笑顔を 見れたんだらう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 I)

もしも 遠い未来へ受け継がれるものが 戦争ではなく 平和のねがいであったなら
人々は争いを忘れ 笑顔でずっと過ごすだらう。
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 I)

もしも 人々の心にやどるものが 戦いの心ではなく 人を愛する心だったなら
誰かの運命を変えたりせずに 自分たちの明日をおくれるだらう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 I)

もしもこの時間を 戻せるのなら 私達はそのとき その場から逃げて
家族や大事な人と はなればなれにならないで 幸せのまま 生きていられただらう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 K)

もしもこの地にふりそそいだものが 放射線ではなく 平和で満ちた光であったなら
たくさんの人々が 苦しまないで 笑顔で暮らすことができるだらう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 N)

もしも、人に与えられた物が 名誉や、武器でなかったら
人々は平和に暮らす事ができただらう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 F)

もしも この空に 光るものが 爆弾でなく 希望の光であったなら
すべての人を 失わずに 明るい時を 過ごすだらう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 K)

もしも、この世に戦争がなかったら 何人の人が平和に生きていただろう
そして、今頃は、楽しく暮らしていただろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 S)

もしもこの地球に もう 1 回生きれたら 家族と友達と 楽しく明るい人生を
自分たちが こうかいしないように 遊ぶだけ遊んで 暮らしていただろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 U)

もしも この地上に戦争がなかったら 苦しんだ人や悲しんだ人がいなかつたらう
世界中の人たちが笑顔になれるまで 地球は平和にならないだらう。
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 K)

もしも 人々が命の大切さを知っていたら こんな愚かな 戦争はなかつたらう。そして
世界は“幸せ”な笑顔と平和でつつまれているだらう。
そんな日がくるまで 平和をねがいつづけよう。
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 O)

もしもこの世から 戦争がなくなれば みんなが笑顔で暮らせるから
誰もが幸せに生きられる みんながそれをねがうだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 N)

もしも この世界に戦争がなければ 多くの人々が救われ 苦しむ人がいなくなるだろう。
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 K)

もしも この青空に広がったものが 爆雲ではなく 白く大きな雲ならば
鳥は空にはばたき わたしたちは 空を見上げて ゆめをうたいつづけるだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 S)

もしも あの時なくなった物が 人々ではなく 兵器だったなら
外国で続いている戦争がなくなり この世界は平和になるだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 T)

もしも、この目の前に、いた人が アメリカ軍ではなく、神様だったなら
恐怖心ではなく希望になって 生きる勇気を持てるだろう。
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 T)

もしも 人々が 争いをやめれば みんなの胸にはよろこびがあっただろう
たがいにキズつけ かなしむことなく 世界に平和がおとずれるだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 I)

もしも 飢えてる人が 持っているのが 苦しみではなく 食べ物だったら
世界が希望でみちあふれ、明るい未来が永遠に続くだろう。
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 K)

だれが争いを 起こしたのか 争い起こさず 人の事を考えられたなら
尊い命が 失くされないで 共に助け合い 生きていこう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 S)

もしも人々が争いをやめれば 他の国とも 仲良くできて
このことが かなうまで ぼくたちは、共にがんばることを やめないだろう。
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 F)

もしも、世界中から、争いが消え そして武器が なくなり
恐怖や悲しみを 味わうことなく みんな楽しい人生を歩むだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 M)

もしも この空に飛んでいるのが 戦闘機ではなく 鳩であったなら
戦争なんか考えないで 平和を願うだろう
(長野県 M 箕輪中学校 3 年 4 組 U)

もしも、世界に戦争がおこらなければきっと みんな 笑顔でしあわせにくらせるだろう
大切な人を失わず かなしい思いもせずに平和な日々がまっているだろう。
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 U)

もしも この世界に あるものが いじめではなく わかり合う心なら
苦しむ人 悲しむ人々は消え 笑い合って 生きるだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 M)

もしも戦争で、まかれた薬品がよろこびの粉であったなら、
人々は苦しまず、よろこびあい暮らしていただろう。
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 F)

もしも人々に 与えられたモノが 悲しみではなく 自由であったなら
支配や運命を 気にせず生きて それぞれの平和へと 進むだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 M)

もしもこの世界に 生まれるモノが 差別ではなく 友情であったなら
二人で平和を 望んでいって 戦争を終わらせる コトができる
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 M)

もしも、この頭上に落ちてくるものが ばくでんではなく、
花や食べものだったら 今、みんなは楽しく暮らしているのだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 T)

もしも この暗やみに 満ちあふれてる 子どもの涙が 星たちのようになつたら
地に奇せきが起きて 光かがやき 暗やみの世界は 消えるだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 S)

もしも今足下に うめられている 地雷なんかを 花達に変えられたら
歩きまわることに 悲しまないで どんな時も自由に 歩くだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 S)

もしも この頭上を 飛んでゆくものが 戦闘機ではなく 真っ白な鳥であったなら
真っ黒な空に おそれないで 飛び立つ鳥に夢を たくすだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 S)

もしも あのしゅんかん 広がったものが 熱風ではなく 丘をのぼる風であったなら
風を感じながら 空を見上げて 流れる星を見ながら 笑えるだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 S)

もしも この地から なくなるものが 罪なき命ではなく おろかな戦いの心なら
すべてに人間が 夜をおそれずに 明日を楽しみに ねむれるだろう
(長野県 M 中学校 3 年 4 組 I)

(※以上の歌詞は、名前入りでホームページ上に掲載しています。)